新潟県魚沼市の紹介

魚沼市の自然

魚沼産コシヒカリ

ユリの切り花

魚沼市は平成16年11月に堀之内町、小出町、湯之谷村、広神村、守門村、入広瀬村の６町村が合併して「人と四季がかがやく雪のくに」を目標に誕生しました。

新潟県の南東に位置し、福島県、群馬県に隣接しており、面積は約950㎢で新潟県全体の7.5％を占めていますが、面積のうち約84％を森林が占めており、森林面積は新潟県第２位となっています。その中には尾瀬国立公園の一部も含まれており、新潟県側から尾瀬へ向かう唯一の玄関口となっています。

気候については、夏は高温多湿、冬は３ｍもの積雪がある豪雪地帯となっており、特産品としましては、全国的に有名な「魚沼産コシヒカリ」の産地となっています。

50年ほど前に合併前の旧小出町で足立区主催のスキー講習会が開催され、その後昭和37年から51年まで子ども交歓会を実施していたことがきっかけとなり、昭和57年10月１日に足立区と小出町で友好都市提携が締結されました。その後、友好都市提携は魚沼市に引き継がれ、現在は、足立区の小中学生が春から秋にかけ、自然体験学習の一環として魚沼市を訪れています。

魚沼市産スギ材が活用されるまで

非常に雪深い地域（毎年3mを超す積雪量）であり、樹齢80年を超えているスギです。その中から、木の目立てができる製材業者により状態が確認され、選ばれたスギだけが活用されています。

魚沼市造林地
（魚沼市堀之内地区・入広瀬地区）

伐採

市内森林組合により伐倒後、必要部材に応じて造材（一本の木をその太さや長さに応じて分割する作業）され、現場から市内製材業者に向けて運搬されます。

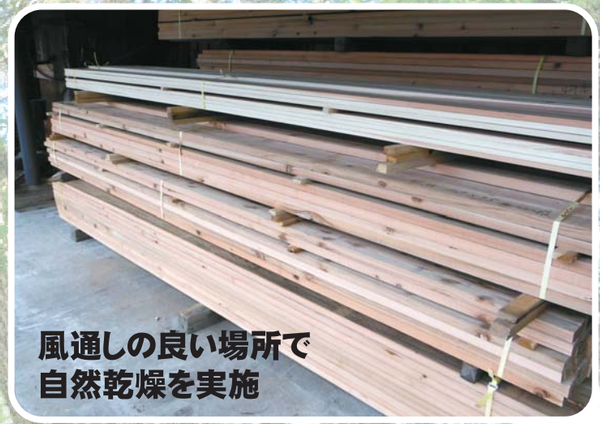
チェンソーによる伐採

荒製材

各製材業者に運搬されたスギの丸太は、自然乾燥する為、少し大きめの規格に荒く製材されます。製材された部材は用途別に仕分けられ、風通しの良い場所で乾燥されます。

製材業者による荒製材

乾燥



風通しの良い場所で
自然乾燥を実施

風通しの良い場所で約一年もの間、自然乾燥が行われました。自然乾燥した材は人工乾燥した材に比べ、艶があり、施工後も割れにくいと言われています。

加工

乾燥した材の加工

乾燥した材は、市内の建築組合により羽目板、リブパネル、ルーバーといった部材ごとに必要な加工が施された後、丁寧に梱包され、東京都足立区に運搬されます。

完成

花畑団地東集会所への活用

加工されたスギの部材は集会所の天井や壁のいたる所にふんだんに活用されています。実際に手で触れて、スギの感触や香りを確かめてみましょう。

魚沼市産スギの特徴

樹齢80年を超える、根曲りスギ

根曲りスギ

魚沼市は豪雪地帯であることから、雪の重みに押され、根元が曲がったまま成長してしまったり（根曲り）、木の幹が筍状になることが特徴です。

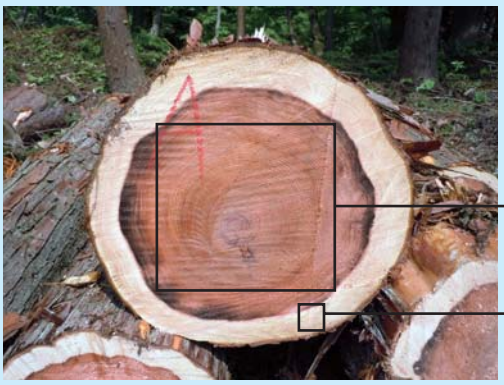
長寿による細かい年輪

魚沼市には樹齢80年を超えたスギが多くあり、長寿のスギは年輪も細かく、市内各地で実施した強度検査においても、十分な値を示しています。

赤身、白身の色のコントラスト

大径木のスギは赤身が多く、白身とのコントラストが明確であり、床材や家具、オブジェ等の見せる材としての利用価値が高いです。

それぞれの特性に合わせ、様々な部材として使用されています。



スギの木は、赤身部分と白身部分とに分かれており、木の芯に近く色が濃い部分を赤身といい、外側で色が薄い部分を白身と呼びます。

赤身　腐りにくく、耐久性があるという特性から土台や構造材を中心に使用されています。

白身　色の美しさや湿度を調整するという特性から板材として、壁や天井を中心に使用されています。